青梅市文化財ニュース

第２７２号

平成２２年６月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684　℡0428-23-6859）

外来種アライグマによる生物多様性の危機

「あらいぐまラスカル」は、テレビの人気番組でした。この影響もあり、アライグマはペットとして人気が出て、あちこちで飼われました。ところが、逃げられたり、飼いきれなくなって捨てられた個体が野生化して繁殖し、各地で増えてきました。

アライグマは北米原産の哺乳類で、テレビの可愛らしいラスカルとは裏腹に、雑食性で動物全般から果実・野菜・穀類まで食べ物のレパートリーは広く、厄介な有害鳥獣です。農業被害とともに在来種への影響が各地で出ています。そこで、国は「特定外来生物」に指定し駆除の対象にしています。

森林や湿地帯から市街地まで多様な環境に生息しますが、一般的には水に近い場所を好みます。夜行性のため姿を見ることは少ないですが、足跡は人間の手のような形をした５本指の形状とその大きさから在来哺乳類との区別は容易です。水辺で獲物を探すために、産卵期のカエルやトウキョウサンショウウオが被害に遭っています。

神奈川県葉山町では、アライグマの食害によりトウキョウサンショウウオが激減しました。ヤマアカガエルに至ってはわずか７年の間に産卵数が１０分の１に減少しました。このため２００６年からアライグマの徹底した駆除が開始され、２００９年にはヤマアカガエルの産卵数は以前の水準まで回復しています。

青梅市で、アライグマによる捕食と思われる、トウキョウサンショウウオの死骸が最初に確認されたのは２００５年です。長淵・友田地区で計５個体が確認されました。アライグマは、トウキョウサンショウウオを丸ごと食べず、頭だけ囓（かじ）り又は頭と尾を囓り胴体だけの死骸が残ります。その後、長淵・友田地区では、アライグマによると思われるトウキョウサンショウウオの死骸が断続的に確認されています。また、大荷田川南側のあきる野市菅生地区

では、アライグマ被害によると思われるトウキョウサンショウウオの激減が指摘されています。２００７年には、小曾木三丁目でトウキョウサンショウウオ約３０個体の死骸が確認されました。近くにアライグマの足跡もあり、アライグマの仕業のようです。この年、小曾木二丁目の厚沢でもトウキョウサンショウウオの頭を噛(かじ)られた死骸が確認されています。今年の春には、あきる野市横沢入でヤマアカガエル約４０個体の死骸がまとまって発見されました。産卵に集まったカエルが集中的に狙われたようです。なお、カエルの場合は足だけが食べられ胴体が残る例が多いようです。

「東京都のトウキョウサンショウウオ」は、環境省のレッドデータブックで「絶滅のおそれのある地域個体群」に指定されています。保護の対象ですが、近年の「特定外来生物アライグマ」による被害が危惧されるところです。これまでの例では、ある年までは軽微な被害だが、ある年から被害が一気に拡大する傾向があります。アライグマの捕食場として定着すると、繰り返し集中的に狙われるようです。そろそろ本格的に駆除を考えないと、在来生物・生態系への危機が忍び寄っています。

（文責　久保田 繁男）